



2017-2018年度 国際ロータリー第 2580 地区
東京東大和ロータリークラブ例会報告

ロータリー：
変化をもたらす

第2580地区テーマ 『感動と調和』
ガバナー 吉田 雅俊

第 2225 回
2017.10.17

RI 会長
イアン H. S. ライズリー

クラブテーマ 『楽しく魅力あるロータリー
ライフを過ごすためには』

第 46 期 クラブ会長 虎井 廣志



点鐘：虎井 廣志 会長

ソングリーダー：尾崎 誠 会員



・ロータリーソング
「奉仕の理想」斉唱

お客様紹介：虎井 廣志 会長



東京東村山RC島田憲三様



東京紀尾井町RC 守重知量様



本荘良一様

会務報告：虎井 廣志 会長



・10月13日(金)に多摩分区分親睦ゴルフコンペに行ってきました。当クラブからは、7名が参加しました。尾崎会員には、当日私の代わりに地区の研修会に出席して戴きました。ゴルフの話で一つだけ。OBを打つとプレイング 4 で前から打てるのです。それがものすごくグリーンに近いところから打てるのです。最終ホールで、OB方が良いと思って横を向いて打とうとしたら、それは駄目ですと注意を受けてしまいました。今後は、真面目にゴルフに取り組まなければいけないかなと思ったのですが、頭の中のデビルがもうやらなくて良いと言っていました。

幹事報告：藤宮 志津子 幹事



- ①11月3,4日に開催される「東大和産業祭」のプログラムが届いています。回覧
- ②I・Mの出欠確認表を回していますので、必ず印を付けて下さい。
- ③出席率報告が地区より届いています。当クラブは、9月 76.1%でした。

- ・ 例会場：〒207-0022 東大和市桜が丘 1-1330-19
BIGBOX東大和内
TEL 042-566-6411
- ・ 事務局：〒207-0014 東大和市南街 5-89-11 2F
TEL 042-564-8338 FAX 050-3488-1715
- ・ E-mail：info@higashiyamato-rc.org

- ・ 例会日：毎週火曜日 12:30~13:30
- ・ 創立：1972年2月23日
- ・ 認証：1972年3月3日
- ・ 日本RC認証 No.1100

Rotary 
東京東大和ロータリークラブ

委員長報告 : 尾崎 誠 副会長



・虎井会長の代理で地区の立法法案検討委員会に出席してきました。第 2580 地区では、59 クラブが参加しました。鈴木孝雄バスターガバナーが委員長です。3 つの提案事項がありました。一つ目は、人頭分担金の値上げに歯止めを掛けようという案です。2016 年度から 2018 年度までは、4 ドル/1 人の値上げと言うことで決まっていますが、2019 年度から、また、4 ドル値上げしようという案が RI から要請があるそうですが、値上げの根拠が不明確であると言うことで地区では如何しようかと言うお話しでした。第 2580 地区では、取り下げで貰おうという方向で進めていくと言うことです。二つ目は、クラブの中の制定案の中に重複している部分があると言うことで、財団の項目を削除して貰おうという話でした。最後は、「4 つのテスト」を 5 大奉仕部門の中に「政治や宗教に関係なくロータリアンが、生活や仕事の関係で使う倫理的方針です。」という文章を入れて貰うと文面がしっかりするのではないかと言うことです。その後、地区の研修委員会もありました。「ロータリーの基本理念」というお話しを聞きました。財団の話、米山の話、青少年奉仕の話等でした。前橋 RC の本田宏紀さんの講演がありました。「日本の RC100 年に向けて」と言うお話しでした。

委員長報告 : ゴルフ部 浦川 哲男 ゴルフ部長



・先ほど、虎井会長からもありましたが、10 月 13 日(金)に東京バーディークラブで開催されました。当クラブの最高位は、第 3 位の波多野永一ガバナー補佐でした。団体戦は、武蔵村山クラブが第 1 位、東村山クラブが 2 位でした。この 2 チームが、地区のゴルフ大会に出場となります。虎井会長には、次回も参加して戴きますので宜しくお願いします。

委員長報告 : 会員増強委員会 守重 勝弘 増強委員長



・会員候補者紹介申請書という者を配布しました。今年度、榎原さんが入会され、来年には本日お見えの本荘良一さんが入荷されますが、どうか今年度 30 名にしたいと思っています。従来候補に挙がっていないお知り合いの方、また、職業分類上入会の無い職業も沢山ありますので、是非記入戴いて事務局までお送り下さい。

出席率発表 : 浦川 哲男 出席副委員長



会員数	出席者	出席率	修正
24 名(免除者2名)	14 名(免除者0名)	63.63%	

ニコニコ発表 : 安岡 伸雄 親睦委員



東京紀尾井町 RC 守重知量様 本荘様楽しみにしています。

東京東村山 RC 嶋田憲三様 お世話になります。

虎井廣志会長 本荘良一様、守重量志知様、ようこそいらっしゃいました。大歓迎です。高木 裕会員 内部卓話宜しくお願い致します。

藤宮志津子幹事 こんにちは。お客さま方ありがとうございます。北海道から帰ってきた人が雪が降っていましたと、石垣島の方が 33 度で台風が来て、飛行機飛ばかなと秋晴れの気持ちのよい例会日です。お客様方、ご来会ありがとうございます。よろしく願いいたします。

守重勝弘会員 東京東村山 RC 嶋田様、東京紀尾井町 RC 守重様、本荘良一様、皆様ご来会ありがとうございます。

森田憲治会員 東村山 RC 嶋田様、紀尾井町 RC 守重様ようこそいらっしゃいました。本荘良一様よろしく願い致します。

波多野永一会員 東村山 RC 嶋田様、紀尾井町 RC 守重様、本荘様ようこそおいでになりました。

10月13日多摩分区親睦ゴルフに会長はじめ参加会員の皆様、雨の中御苦労様でした。幹事を務めていただいた浦川ゴルフ部長には心より感謝致します。

金野眞一会員 守重様紀尾井町よりいつもありがとうございます。東村山 RC 嶋田様ようこそいらっしゃいました。本荘様ようこそいらっしゃいました。今後共宜しくお願い致します。

浦川哲男会員 東村山 RC 嶋田様、ようこそおいで下さいました。ごゆっくりなさって下さい。守重知量様、毎度メーキャップにおいていただきありがとうございます。

高木 裕ロータリー財団委員長 本日の卓話眠らないようにしっかり聞きます。本荘良一様ようこそ。来会ありがとうございます。来年1月からのご入会をお待ちしています。

ニコニコ 本日計 14,000円	累計 323,000円
------------------	-------------

卓話：高木 裕 地区ロータリー財団 資金管理委員長



本日は第2580地区ロータリー財団委員会 資金管理委員長としてお話しします。

ロータリー財団は今年、100周年を迎えました。「次の100年に向けて踏み出した“はじめの一步”」と題して卓話をさせていただきます。ロータリー財団の水野委員長はすべてのロータリアンに同じように理解を深めて欲しいという思いから、共通の説明原稿を用意されております。この指示に忠実に従って話をしますので、ご理解をください。

まずは、日頃のご協力に感謝を申し上げます。2016-17年度は、東京東大和RCからロータリー財団に年次基金として3,450ドル、一人当たり173ドルのご寄付いただきました。誠にありがとうございます。そして、本年度は波多野ガバナ-補佐の意向もあり、既に年次基金150ドル、恒久基金30ドル、ポリオプラス基金30ドル、ロータリー平和センター20ドル、合わせて一人当たり230ドルの寄付を頂いております。また、ロータリーセントラルでの目標登録も実施していただきました。重ねて感謝を申し上げます。

今から約100年前の1917年アトランタ国際大会で、アーチ・クランフRI会長が「ロータリーで基金を作り、世界規模で慈善、教育、社会奉仕において“世界で何か良いことをしよう”」と提案、採択されロータリー財団が創設されました。アトランタ国際大会では、財団100周年を祝う壮大なバースデーパーティーが催され、参加者みんなでケーキを食べました。

ロータリー財団の使命は、3つあります。 1. 人々の健康状態を改善する。 2. 教育への支援を高める。 3. 貧困を救済する。これらを通じて世界理解、親善、平和を達成する事です。財団設立の1917年は第一次大戦の最中でありましたが、RIは大きな器で世界に奉仕することを考えていたことに敬意を憶えます。「世界理解、親善、平和」と言われても、自分にできることはないと感じるかもしれませんが、小さな行為が「バタフライ効果」で大きな成果につながる可能性があります。「バタフライ効果」とは、幾つかの物事が連鎖し相乗効果が上がる、日本でよく言う「風が吹けば桶屋が儲かる」以上の効果が期待できることです。例えば、あなたがした寄付は23,000円でも、クラブでまとめると数十万になり、地区でまとめると数千万になり、全世界でまとめると約300億円になります。吉田雅俊ガバナ-の東京新都心RCは、ネパールで井戸を掘るグローバル補助金を5月に行いました。寄付金が財団補助金になり、東京新都心RCがネパールの村に井戸を作る。新しい井戸で、女の子が何度も何度も髪を洗って見せた公式訪問で話していらっしゃるようですが、きれいな水で体を清潔に保つことで、皮膚病等の病気を予防することができます。清潔な井戸水で食事を作ることでおなかを壊すことがなくなり、元気に働いたり、学校に通ったりすることができるようになります。子供や女性は毎日の水汲みから解放され学校に通い、お医者さんや学校の先生になることができるかもしれません。水を使って小さなパン屋を始めたり、陶器を作って売ったり、多くの商売が広がって雇用機会が増えます。その結果村が自立し繁栄につながります。

寄付総額の話が出ましたので、前年度のロータリー財団の収支を説明します。収支に関して「良く判らない」と

の意見がありますが、しっかり調べると財団の収支、運営は健全だと言えます。判り易くするため円貨で申し上げます。財団への寄付総額は2015-16年度266億円でした。内訳は、年次基金121億円。ポリオプラス基金27億円（ビル・ゲイツ財団から約2倍強の支援すなわち70億円が入ります）よって計97億円。恒久基金17億円。その他31億円でトータル266億円です。120万人のロータリアンでは一人当たり1.6万円という計算になります。前年度終了時点で、ロータリアンの資産は10億ドル（1,000億円）を超えています。年次基金への寄付は、運営費を支えるために3年間の投資期間を経てから、地区や財団がプロジェクトや補助金に利用できるようになります。ポリオプラス基金の資金は、低迷期に元金を保全するため、短期の確定利付証券への控えめな投資に充てられます。ロータリアン、ロータリアンの支援者、ゲイツ財団を含むロータリアンのパートナーから寄せられる寄付は、ポリオプラス補助金を通じて適切に配分されます。恒久基金への寄付は元金となって恒久的に維持され、投資による収益が財団プログラムを継続的に支えます。これに対し支出ですが、収入の91%を財団プログラムとプログラムの運営費に支出しています。

さて、ここからは、ロータリー財団がどのようなプログラムを進めているのか！について説明します。

① ポリオ撲滅 ②ロータリー平和フェローシップ ③補助金プログラムこの三つだけです。

財団はややこしいという先入観を取り除いて頂きたいと思います。

それではこの三つのプログラムを順に説明しましょう。ポリオの正式名称は「急性灰白髄炎」^{きゅうせいはいはくずいえん}、一般に「小児まひ」とも呼ばれます。感染者の便にあるウイルスが、手や指を介して口から侵入し、体の中で増殖し、主に5歳未満が感染します。例えば、トイレが未整備の村で、ポリオ感染者が草むらで用を足し、雨が降って便がどぶ川に流れ込んだり、生ワクチンの投与を受けた子どもの便がついた下着を適当にごみの山に捨てたりして、便にあるポリオのウイルスが、土壌、地下水、廃棄物などの生活環境の中に出回ることにより、衛生環境が悪い地域や貧困地域で、人々の間に発症が広まるのです。予防は簡単ですが、まひが出た場合、回復は困難です。ワクチン接種で免疫抗体をつくるのが予防の最善策です。ポリオワクチンは熱に弱いので、経口生ワクチンは-20℃以下で管理されるのですが、工場出荷直後から末端のヘルスセンターに到着するまで、空輸や陸路で輸送される間、途切れなく温度管理を続ける必要があります。そのためには、必要機材の設置はもちろんのこと、停電時などへの備えが必要です。ワクチン投与をした子どもの爪には、目印として紫色のインクを付けます。予防接種のクリニックで待っているだけでなく、個別訪問で投与をすることもあります。パキスタンでは、移動する人たちがワクチン投与から漏れないよう、バスの停留所、料金所、国境の検問所などで待ち構え、車の中に子どもを見つけるとすぐにワクチンを投与するという地道な活動が行われています。電車でもホームで待機しているポリオのチームが、電車の短い停車時間中に車内に乗り込みワクチンを投与するというのもやっているそうです。野生型ポリオウイルスによる発症数は、35万人から37人まで減少しました。ウイルスの常在国はパキスタン、アフガニスタン、ナイジェリアの3か国だけになっています。このような説明をすると、もう日本には関係ないように聞こえますが、既にポリオフリーが宣言されている国でも、子どもへのポリオワクチンの接種は継続されています。日本は2012年に不活化ポリオワクチンが導入され、それを含む4種混合ワクチンも2012年11月1日から導入されています。今日生まれた子どもも、生後3か月～7歳6か月になるまで4回、病院で4種混合ワクチンを接種します。日本では1940年代頃から各地で流行し、1960年には6,500名以上の患者が発生する大流行となりましたが、ワクチンの定期接種などにより野生型ウイルスによる発症は1980年が最後と言われています。しかしその後も約40年間、子どもたちにワクチンの接種が継続され、皆さんのお子さんやお孫さんもワクチンを投与や接種しています。その費用は税金で賄われています。常在国が遠くても、地球上からポリオが撲滅するまでは、世界中の子どもがワクチンの接種を続けなければなりません。ポリオ撲滅活動はロータリーが単独で行っていると思っていらっしゃる方もいるようですが、それは正しくありません。WHOが全般的な指導や支援をし、ユニセフがワクチン調達、CDCが専門家の派遣や発生源の分析、ロータリーとビル・ゲイツの財団が資金の拠出をするというように、協力して活動しています。アトランタ国際大会で各国政府からの寄付が約束されました。安倍内閣総理大臣のビデオメッセージも流れ、日本政府が5,500万ドルを寄付することが誓約されました。わずか60円のワクチンで一人の子供をポリオから守ることができます。昨年の発症数は37人でした。今年には10件の発症が報告されており、この様にもう少しでポリオを撲滅するところまで来ているのですが、ポリオ

撲滅には資金確保が必要です。今、徹底的に撲滅をできず、ポリオが再流行すれば、10年以内に世界中で毎年20万人がポリオを発病すると見積もられています。是非、年次基金だけではなく、「ポリオプラス基金」にも毎年のご寄付をお願い申し上げます。もうひとつ、当地区のロータリアンが忘れてはならないことがあります。それはこのポリオ撲滅活動をロータリー財団の事業として取り上げさせたのが、日本人のロータリアン、それも東京麹町RCの会員であった山田ツネ氏であったということです。山田氏はロータリーの3H(保険、飢餓追放及び人間性尊重補助金)活動に参加するため南インドに行かれ、ポリオに苦しむ子供たちの惨状を目の当たりにし、深い関心を寄せられました。その後、東京麹町RCで南インド・ポリオ免疫プロジェクトを提唱し、その活動を他クラブや当地区に拡大なさいました。世界中で取り組むべきだとRI会長や国際ロータリーに訴え続けられ、その結果、ポリオ撲滅がロータリー財団の事業として取り上げられたのです。志を同じくする東京麹町RCの峰英二氏と共に度々インドまでワクチン投与の奉仕活動に参加され、数年に亘るその活動の最中に原因不明の病原菌に侵されてお二人は世界されました。命をかけて献身された偉大な先輩の存在を、当地区の皆様には、何時までも記憶に留めていただきたいと思います。

次のプログラムは「ロータリー平和フェローシップ」です。今、世界では50か所以上で国際紛争があります。世界各地で平和の推進者となる人材を育成するための奨学金制度です。第一次大戦中の1917年に設立されたロータリー財団ですが、ポール・ハリスは2度の世界大戦を経験し、平和の大切さを痛感していました。ポール・ハリス没後50年の節目に平和センター設置の計画が持ち上がり、2002年にプログラムが始まりました。財団が候補者の中から100名を選抜し、世界6大学で紛争予防・解決を学びます。皆様のご寄付を元に財団が奨学金を支給します。

ではこのプログラムの内容とロータリー平和センターの場所について説明します。紛争地域などで平和に関する活動している人が、更に勉強をしてスキルアップをするためのプログラムです。まず、長期コースは修士号取得を目指し、2年間学び3ヶ月の実地研修を受ける50名。このコースはスライドにある5大学で、日本では国際基督教大学で毎年10名ほどが学びます。応募資格は平和に情熱があり、修士号を持ち、平和関連分野で3年の経験のある人達です。次に短期コースは、既にこの分野の経験がありスキルアップを図る社会人50名。このコースは、タイのチュラロンコン大学で3ヶ月学んだ後、3週間の実地研修を受けます。応募資格は平和に情熱があり、平和関連分野で5年間の経験がある人達です。両コースとも英語を含む2か国語に堪能である事が条件です。学友は即戦力としてユニセフなどに於いて上級職で活躍しています。日本では国際基督教大学の大学院修士課程で学びます。スライドにあるように、2002年からプログラムが進められ、16期まで138名が学び活躍しています。地区財団委員会には平和フェローシップ奨学生の担当セクションがあります。現在、日本で勉強しているのは15期生と16期生です。15期生のカウンセラーとして東京青梅RCのさとうとしみつ佐藤利光さん、東京北RCのながふじまさお永藤昌男さん、16期生のカウンセラーとして東京練馬西RCのもとはしきよひこ本橋興彦さん、東京ベイRCのかねこういちろう金子高一郎さん、に奉仕頂いております。誠に目立たないところで平和フェローのカウンセラー各位には熱心に奉仕をして頂いております。ロータリー平和センターへの寄付は、この制度の末永い存続を確実にし、投資収益はロータリー平和フェロー達の奨学金になります。ご寄付の検討をお願い申し上げます。

さて次は、私たちのクラブが奉仕活動を行う補助金プログラムです。当地区では2010年から現在の制度を導入していますが、既に61クラブが補助金を活用していただきました。地区補助金は100件以上、計約4,200万円が社会奉仕活動に充てられました。グローバル補助金は申請中のものを含めると9件約14万ドルのDDFが使われています。「補助金」は我が地区の会員が財団に対して寄付したものが原資です。3年前の寄付の約半分が地区に戻ってきます。「補助金」は、「地区補助金」と「グローバル補助金」の2種類に分かれます。どちらの補助金も「人道的プロジェクト」と「奨学金」に使用可能です。地区補助金は、1年以内に完了する比較的小規模な活動で、社会奉仕活動でも国際奉仕活動でも構いません。ガバナー月信9月号に「単に人に水を出すのがサービスではなく、水を欲する人に水を出すのがサービスである。サービスするためには、まずはニーズが知ることが必要だ」とガバナーが書いていました。補助金を使った活動も、ロータリアンがやりたい活動をやるのではなく、地域や支援先のニーズを知り、本当に求められている活動を実行してください。「地区補助金」の総額は毎年約1,200万円です。「人道的プロジェクト」には、プロジェクト総額の8割かつ最大40万円まで補助されます。例えば、総額50万円のプロジェクトで

は40万円の補助、総額40万円のプロジェクトは8割の32万円の補助です。総額100万円のプロジェクトでも最大40万円の補助になります。地区補助金の「奨学金」は、デザイン・建築・音楽・芸術・哲学・歴史など分野を問わない専攻で海外の大学に留学する方を支援します。当地区では、人道的プロジェクトに重点を置いて配分し、残りを地区補助金奨学金に充てています。地区補助金プロジェクトを分析すると、「物品寄贈」「設置」「イベント実施」の3つに大きく分類することができます。「物品寄贈」ですと、児童養護施設に机やミシンを寄贈したり、福祉センターに視覚障がいを持つ方の卓球台を寄贈したり、沖縄では、食糧を集めて生活困窮者に配布する団体に食品保管庫が寄贈する活動が行われました。「設置」では、気仙沼の仮設グラウンドにブランコ等の遊具を設置したり、バギオに浄水器とタンクを設置する活動が行われました。「イベント実施」は、母子生活支援施設にてお母さんの顔をスケッチする教室や、地域の中学校の生徒会を対象としたいじめ防止フォーラム、障がいを持つお子さんのためのスポーツ観戦イベント等が実施されています。地域の社会福祉協議会や自治体の役所とコンタクトするとヒントが得られます。またインターネットで「児童養護施設 東京一覧」と検索すると、連絡先を調べることができ便利です。まずは施設の方にお話しを伺ったり、卓話をお願いしたりし、時間をかけて必要な支援をご相談するクラブが多いようです。「グローバル補助金」は、実施国と援助国のクラブが協力して行う総額300万円(3万米ドル)以上の大規模な奉仕活動で、内容はロータリーの6つの重点分野に限られ、大きな成果と長期的持続が望まれる活動です。

RIは6つの重点分野を定めています。

- ① 平和と紛争予防/解決
 - ② 疾病予防と治療
 - ③ 水と衛生
 - ④ 母子の健康
 - ⑤ 基本的教育と識字の向上
 - ⑥ 経済と地域社会の発展
- です。

グローバル補助金の実施例ですが、東京新都心RCがナガルジュンRCとパートナーとなり実行中の、ネパールにおける水と衛生のプロジェクトは、総額4万ドルの活動です。又、「疾病予防と治療」の重点分野の奨学生、杉原さんは、ジョンス・ホプキンス・ブルームバーグ公衆衛生大学院で公衆衛生を専攻しました。支援した奨学金は4万ドルでした。現在は、ポリオ撲滅のパートナー団体にもなっているCDCに勤務しています。補助金の申請受付期間は、地区補助金もグローバル補助金も共通で、7月～9月末日の3か月間です。今回は、来年7月から申請を受け付けたいと思います。

最後に、寄付に関して説明いたします。前年度の当地区の寄付総額は約67万米ドルでした。1989年以降では2番目に良い数字です。ご協力ありがとうございました。前年度の当地区の寄付の内訳は、76%が年次基金、ポリオプラス基金が11%でした。年次基金には全69クラブがご寄付をくださいましたが、ポリオは約半分の38クラブ、恒久基金はさらに減って33クラブ、平和センターは21クラブだけでございます。クラブにお話しを伺ってみますと、「良く分からないからとりあえず年次基金に寄付をするよう指示をした」、「クラブの例年通りにした。実際にどの基金に寄付をしているかはよく理解していない」、「3,000円×3年間のポリオの寄付のキャンペーンが終わったからそれ以降は寄付しなくても良いと思った」というお声がありました。ポリオ撲滅活動は今なお続いておりますので、皆様のご寄付が必要です。平和フェローを支えるため、平和センターへのご寄付もご検討いただきたく存じます。

さて、結びですが、ロータリー財団の使命は、ロータリアンが、人々の健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済する事を通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすることです。

この奉仕活動の原資になる寄付をお願いしています。

集金マシンと揶揄される財団委員会ですが、私達はもう少し上品に「浄財ボックス」と名付け、ロータリアンお一人お一人の真心を頂きたく存じます。ロータリー財団は次の100年に向けて、今年が“はじめの一歩”となる年です。

財団の意義をご理解頂き、寄付にご協力をお願い申し上げます。ありがとうございました。

以上 共通説明原稿より